メタ認知的方略を使用した学習活動の効果（1）

—高等学校英語学習のルーブリック開発—

The Effect of Students' Learning with Metacognitive Strategies (1)

—Development of Rubric in High School English Classes—

キーワード： 学習法，ルーブリック，自己評価

今井倫子[*1]・加藤直樹[*2]

IMAI Michiko and KATO Naoki

1　はじめに

1.1　研究の背景

1年間，3年間に学び変わりゆく生徒たちの中には，どの学年にも実に賢い効果的な学習方略を身につけ，大きな成果を収めているもの，学業においていわゆる伸長を遂げているものがいる。その変容振りは非常に興味深く，第一著者 (以降，筆者) は，こういった生徒たちの学びの営みの過程とその成果について解明し，その姿を理想のモデルにして，より優れた学習者を育てていくための学習法を研究してきた。そしてその手段をこれまでの経験の中にみて，探っていく。

生徒が自身の学習および学習法を，メタ認知を使って振り返る活動を取り入れる。省察活動によって，どんな心構えでどういった学習にどのように対処すれば効果があるのかを，自分でつかめるようになると想定したからである。また生徒の主体的自律的な活動は，学習面の伸長のみならず自己形成に役立つと考えられる。

高等学校の英語教科教育の中で，生徒の思考力を高め，更に効果的な学習へと導く学習活動を促進し，目標達成に向けての道案内をしていくためにルーブリックを開発し，自己評価の活用法を提示する。

1.2　理想の学習者像

生徒自身が自律的な学習を目指して，自らの学習法を振り返り，自らの学習をモニターし評価し改善できるという技能，自己調整力を築いていけるようにする。自己調整学習のできる生徒は，自分の学習目標に到達するために，自ら思考し判断し表現し，自分が築き上げた学習法を意図的に使い分け，的確に使いこなし，自分の学習法や学びと，その過程を不断に振り返り，それに修正と改善を施し，新たな知識や情報を得て更に進んだ深い思考を生み出し，成長を続けている。これが筆者の目指すところであり，こういった「賢い」学習のできる生徒を『スマート学習者』と定義する (今井ら　2014)。そして『スマート学習』は，授業の中，学習活動の中で，生徒と共有できる理想の学習法を示すものであり，この実践において生徒とともに追求していきたい，筆者の思い描くモデルとなる学習を象徴する。

ゆえに，例えば授業での指導，生徒との会話，自己の振り返りといったような場において，説明や

*1　佐々木学園鶯谷中学・高等学校　　*2　岐阜大学総合情報メディアセンター

前置きなしで「スマート学習」ということばを適用することができる。また，教科学習に寄り添った模範となる学びの姿や方略が具体的につかめて周知され，理想像として到達目標に掲げられるため，達成に向けて推進しやすいと考えられる。

1.3　ルーブリックによる自己評価の目的と意義

自分を振り返る活動，すなわち「メタ認知的方略」を使って自分をみつめることは，自身の学習法を改善し学力を伸長する手助けとなる。その活動を促進させ，生徒にスマート学習の養成と定着，発展を図って詳細な方略をわかりやすく示してやると，省察，モニタリング，修正といった活動を習慣化させ，日々の学習に浸透していくことになるだろう。

生徒がメタ認知を駆使して自身を振り返り，自分自身のことがわかり，自己評価し，自身の力で修正すべき点に気づき，よりよい方略を取り入れて学習法を改善していくことには価値がある。自分が認知し納得しているのだから，取り繕うことなく，自信を持って学習を進めていけるはずである。そうすると，工夫を重ねてより効果的な学習法が身について，自ずと学習成果も期待できる。

そこで，自分の学習を，自分の学習の仕方を，学習している自分自身をメタ認知でみる活動として，自己評価の場を設ける。生徒が自分自身を知るために，自分の実態をつかむために，高校生用の，しかも外国語（英語）教科学習のルーブリックがあれば，それぞれの項目について，一歩進んだ段階，つまり上の指標を到達目標に定めることによってスマート学習化が進み，学習法改善と英語学力の伸長を促す効果的な手段となるのではと考え，提案する。

1.4　ルーブリック作成に至るまでの経緯

筆者は，授業の中で生徒がメタ認知を使って自分をみつめ，学習法の改善をするように促してきた。例えば，丸暗記をしてテストに臨んだときの自分の答案，思考しやっとひらめいて結論に至った解答，既習のイディオムや派生の英単語などを関連付けて導き出した英文解釈，一方的に教えてもらって書き写した日本語訳と，吟味して選び抜いたことばを用いてきれいにつながった日本語訳，その場凌ぎでぎりぎり合格した小テスト対策と自分の力になるよう完全理解に努めた確認としての取り組みなど，さまざまな場面を対象とした省察活動が基盤となる。

今井（2014）は，学校教育の英語教科教育の場においてラーニング・ポートフォリオの省察の観点を取り入れた叙述活動を行った（図 1）。図 2 は生徒の叙述したポートフォリオに筆者がコメントと助言を書き入れたものの写しである。そこでは学習到達目標を設定して，教育現場でいうところの「振り返り」，つまり「メタ認知」と呼ばれる高度な知的活動が最も重要な成果として表れた。生徒たち全員分の叙述をひとつひとつ書き出し，整理して分類し，それらを考察したところ，スマート学習者のあるべき姿や心構えといった理想像から，改善すべき点よくない例までもがいくつもはっきりと浮き出てきたのである。

そこで，それらの叙述すべての分析を抜本的にやり直し，生徒が自分自身を振り返り自己評価する手段として，ルーブリックの作成を考案した。生徒の表現をできるだけ忠実に生かして表示すれば，生徒は具体的にどうすることがより効果的な学習なのかそうでないのかを容易に読み取り，改善を試みることができる。期待される学習法の姿形を到達目標に挙げて段階を提示するとともに，短い文章で省察の叙述ができるようにした。そのルーブリックを使用して省察活動を行い，スマート学習化の進捗状況から，その価値・意義がどの程度生徒に理解されているか，方略を確実に自分のものにしているかなどを考察し，生徒の伸長をみる。

カスタマイズされたルーブリックがあれば，それをもとに対象生徒や実施時期に応じて項目を選択し組み合わせて自己評価表を作成することが可能となる。このようにして，スマート学習促進のための，生徒と教師の目線に立ったルーブリックを開発するに至った。

生徒が自身をみつめ，修正し伸長していくことには意義がある。学習者自身による振り返りの重要性は確認されているが，その自己評価がなされる評価基準においてブレが生じてはいけない。理想像を，ルーブリック項目の形で具体的に詳細な基準にして表出することができた。

2　ルーブリック

2.1　ルーブリック作成

ルーブリックを使用しての省察は，メタ認知を使った学習活動の重要な実践例である。濱名 (2012) は，全米の大学を代表する大学教育の専門機関，米国大学協会によって作成されたVALUE RUBRICをもとに，学習成果を測定する尺度としてルーブリックを活用した。評価の観点を尺度に表すことによって学習成果が定性的に可視化されることを，ルーブリック評価の利点としている。

本研究では，そのカテゴリー，項目の観点や基準などを高等学校の英語教科教育に適用させ，文言は実施したラーニング・ポートフォリオの省察記録を使用した。ルーブリックの項目に省察記録の具体例を載せると，生徒は自己評価しやすくなる。スマート学習の促進を目指して学習法改善を図るために，生徒自身が自らを振り返り実態をつかみ，評価の目安として明示化された基準を用い，かつ自分で到達目標を確認できるようにする。

生徒がより自分の学びに目を向け，より優れた自分の学習法を確立し，より納得し，果てにはより自身の目標達成に近づけるよう，教師としてどのように導いていったらよいかを追究していく。

2.2　基礎となるルーブリック

表１　コモン・ルーブリック『自分の学習法の振り返り』

	Capstone 最後の仕上げ ４	Milestone 重要な段階 ３	Milestone 重要な段階 ２	Benchmark 基準･水準 １
構成 **－construction** 省察的叙述として内容･課題が論理的に説明されているか	課題や問題が論理的で明確に記述されており，包括的に説明されている。 緻密に構成されている。	課題や問題が明確に記述されており，理解できる。 うまく構成されている。	課題や問題の記述や説明があいまいである。 ある程度うまく構成されている。	課題や問題が，記述も説明もされていない。 うまく構成されていない。
証拠の選択 **－evidence** 生徒自身の進歩や到達目標に対して根拠や結論を裏づける情報を示(利用)しているか	証拠資料が適切に結論に至る理由とともに，あるいは理由が想定できる状態で示されている。	証拠資料が適切に示されている。	証拠資料がある程度適切に示されている。	証拠資料が適切ではない。
省察 **－reflection** 省察しそれを自分のものにしているか	自分の学習に対して，すべて記述的洞察的な振り返りができている。	自分の学習に対して，ほぼ記述的洞察的な振り返りができている。	自分の学習に対して，部分的に記述的洞察的な振り返りができている。	自分の学習に対して，ほんのわずかに記述的な振り返りができている。
成果 **－outcome** 結論と関連する成果が認められるか	結論が適切な情報に論理的に結びついている。 関連する成果が明確であり，評価や展望を反映させている。	結論が様々な情報に論理的に結びついている。 関連する成果が明確である。	結論が情報に結びついている。 関連する成果がいくつか確認できる。	結論が情報のいくつかに矛盾して関連付けられている。 関連する成果を簡略化しすぎている。

学習法の振り返りのための基礎となるルーブリックを作成した。これをもとに，カテゴリー別に高等学校の英語学習版を組み立てる。

2.3　ルーブリック－高等学校外国語（英語）教科

表１のコモン・ルーブリックをもとに，構成・証拠の選択・省察・成果の４つのカテゴリー別に学校教育の学習活動，また学習場面における項目を挙げた。次にそれらをまとめて整理し，『授業を受ける姿勢・学習への心構え』と『英語学力の蓄積』の観点に分けた。更に，『授業を受ける姿勢・学習への心構え』は，「姿勢・心構え」「自主勉強や予習の取り組み」「授業中の作業」の側面で区切り，『英語学力の蓄積』は，学習力を支えるために強化すべき力，「関係つける力」「考え気づく力」に振り分けた。この力はそれぞれ，前者が「既習の内容や友人の意見を関係つけたり思い出したりして整理できる・いろいろな知識と結びつけて学習できる・思考の広がりを持てる」，後者が「手っ取り早く済ませるのではなく考えて学習できる・考えて理解しようと努力する・ただ鵜呑みにしない・疑問や問い，批判的思考力（反論）などを持つ」という概念で構成される。ここに「振り返りができる・みつめ直す・メタ認知力で自分を見ることができる」といった概念を持つ「理解の具合をはかる力」を加え，学習力を強化するために身につけるべき３つの力を組み立てた (今井ら　2014)。表３に，それぞれに分類したルーブリック項目の一部を掲載する。

3　ルーブリック実施方法

3.1　実施年次と項目の基準

高校の学習をある一定期間は実践していることが前提であり，基本的学習習慣の確立時期を経て，学習力の定着，その後，応用力の養成と，最終的には大学受験といったような進路目標に応じて，目指す学習法をその都度設定し，実施する。

ルーブリックの項目は高等学校普通科外国語（英語）教科に基盤を置くが，学校の性質やレベルなど，また生徒の実態と到達目標をみて項目を選び，かつ手直しをする必要がある。

3.2　ルーブリック項目の選出　指標レベルの設定　および叙述内容の設定

それぞれの観点からバランスよく選びたい。教師は，担当しているクラス全体をみて，いつまでにどんな学習法を定着させたいか，その時点で身についている力をどのように生かし伸ばしてやりたいかなどを考え，項目を設定する。

生徒が行う自己評価表には，見直す際にわかりやすいよう，『授業を受ける姿勢・学習への心構え』や『英語学力の蓄積』というように観点などを項目の振り分けに示す。

自己評価にかかる時間と集中度と適合性の点から考慮し，項目は10程度に絞る。

項目ごとに，Capstone「最後の仕上げ ４」，Milestone「重要な段階 ３」，Milestone「重要な段階 ２」，Benchmark「基準・水準 １」という４つの指標のレベルが１→２→３→４とランクアップするように段階的に設定し，それぞれの尺度に説明を入れてもよい。学年や対象生徒に応じて，文言はわかりやすく変える。

最終自己評価の際に生徒が自分のことばで振り返りをしたり目標を掲げたりすることができるように，下段に叙述欄を作る。学年や対象生徒，そして時期に適した２つ程度の問いにして，簡潔に数行でおさまるような生徒の負担にならない内容と量にする。例えば，ひとつは「学習法をどのように改善したか」といった自身の学習法をあらためて省察するものと，もうひとつは「○学年の集大成としてどんな学習法を確立して目標達成につなげるか」などといった次のステップへの足掛けとなるものがよい。

3.3　実施期間の設定

高校での学習の範囲で，生徒が学校の授業を受けて自主学習を継続し，個々の学習法の改善をしていく変容の様子を追っていく。よって，ある程度の期間は学習を経ていることと，教師からの指導を

受けて，それぞれが自身の学習法を築き，あるいは築こうと試行錯誤し，より効果的な学習法を見出したいとかもっと学力をつけて学業成績を伸ばしたいとかいった，自らの学習法改善を求めている生徒がいて，結果が期待できるだけの授業内実践が行われたことが必要条件となる。ただし，高校や科・コース，学年によって，また生徒の性質やレベルによっても目指すゴールが異なるのと同様，必要な時間も一様ではないだろう。

例えば大学受験を志望する高等部３年生の場合は，特に夏期休暇前はより具体的で詳細なアドバイスを求めている。なんとかしたいけど間に合うだろうか，果たして力をつけられるだろうかと不安を抱いているかもしれない。苦手教科の克服と得意教科の定着と養成を図り，これだけはやるといった相当な意欲を持って計画を立てているだろう。目標達成のラストチャンスだと思うからこその強い決意で，自身に課題を与え，勇んでいるはずだ。生徒が自身を振り返り，自己評価し，学習法を改善して的確に実践し，自信を持って学習に臨めるよう，要望に沿ったアドバイスが供給できるとよい。

ルーブリックで自己を振り返るのは，省察の初期にそれまでの実状と，中期に変容の過程と，後期に改善の結果を観察するために，３回が基本となる。または，年度や学期の始業から一ヶ月程経った頃に，以前の自分の状態を思い出して，その時点のものと同時にチェックを入れ，最終回は実質３回目の自己評価になるように設定する。無理ならば，振り返りの初回と最終省察が少なくとも三ヶ月程は経っており，その間に長期休暇を含まず，最終回が長期休暇の前になるように設定できれば，２回でもよい。

表２に高等学校学年別の実施時期の例を示す。７月末は夏期休暇直前，12月末は冬期休暇直前である。

表２　ルーブリックによる自己評価 年次別の実施時期の例

1学年	６月中・７月末・10月中	９月初・10月中・12月末	
2学年	４月初・６月中・７月末	６月中・７月末・10月中	９月初・10月中・12月末
3学年	４月初・６月中・７月末		

その時期に見合った目標を設定し，実施したい。なお，長期休暇をまたぐ場合は，授業がないため生徒の様子を観察することができないので，その期間の自主学習の取り組みに対してひとりひとりへの行き届いた指導も必要であろう。学習内容も学習サイクルも大きく変わるので，休暇前に学習計画を提出させて学習の仕方を確認するなどのフォローをする。

3.4　実施手順

ルーブリックへの記入は，チェックしやすいように，また視覚的に一見して自身の変容・改善がわかるように，自己評価は簡単な記号を用いて直接書き込むようにする。一番混乱しないやり方は，実施の月をそのまま書き込む印であろう。１項目ずつ評価回数分の印が入るということで，例えば３回の実施として，４月初旬は④，６月中旬は⑥，夏期休暇直前の７月末は⑦というマークである。

最初は１項目を例にとって，指標を読み合わせ，該当する内容の確認をしながらの説明を要す。

ルーブリック評価をする際には，理想とするスマート学習への改善や伸長は，右から左へ１→２→３→４とランクアップするように細目が設定されており，それまでに位置していた枠の，左の列の内容が実践できていることが望ましく，それが伸長を表すということを生徒に伝える。また，次の目標とする学習法や姿勢，心構えをルーブリック上で確認させる。

自己評価表は一旦回収して教師が保管する。そして最終評価の折には，生徒はルーブリックへの最終チェックとともに，下段に設けた叙述欄に自身のことばで振り返りをする。

3.5　ルーブリックの評価の仕方と個々へのフィードバック

生徒が自分の力で自分自身をみつめ，気づき，修正し，自分に合った最良の学習法を見つけ実践できるようになることが，本研究のねらいである。自己評価のルーブリックは，『授業を受ける姿勢・学習への心構え』と『英語学力の蓄積』などの観点別に分類された項目ごとに，生徒が自身の変容を振り返るようにする。そして教師は，生徒の力を引き伸ばし，それぞれの要求に応じた効果的なフィードバックをする。

ルーブリックにみられる生徒の伸長についての評価は，個々によって異なる。最初からCapstone「最後の仕上げ ４」であればもちろんそれに越したことはないが，習慣も癖も学力も学習法の好みも同じではない生徒たちが，一括して学校教育のひとつの環境の中で共通の授業を受けて学習を重ねていくので，変容と伸長のはやさも度合もまちまちであるはずだ。ゆえに，十人十色の成長がみえてくると考えられる。

もし，多くの生徒に変容が認められない項目があったら，たとえそれがCapstone「最後の仕上げ ４」であったとしても，ルーブリックの項目として不適であったとみなす。

また，どの項目においてもCapstone「最後の仕上げ ４」に行き着いたから完了というわけではなく，今度はその学習の仕方を継続し姿勢や心構えを維持する必要がある。加えて，生徒がどんな成果を目指しているかなどといった実態と到達目標を正しくつかんでおくことに意味を持つ。

教師は，ひとりひとりのルーブリックに意欲を高めるコメントや適切な助言を書き入れ，速やかに返却する。特に，逆行した項目がある生徒，変化が見られない項目がある生徒には，その内容について必ず触れる。

図３に，実際に行ったルーブリックの写しを示す。2013年前期４月から７月末までの３回にわたって高等部３年生が自己評価をし，それに対して筆者がコメントを書き入れたものであり，最終振り返りのその次の授業，すなわち休暇直前に全員に返却することができた。

生徒が自分のことばで省察した叙述欄については，特に本質的な変容が表れていると考えられるため，丁寧なフィードバックを施し，緻密な分析を行う価値がある。その後の指導にも役立てたい。

4　おわりに

4.1　ルーブリックを使用した自己評価の意義

メタ認知的方略を使って自分をみつめることの重要性を示しつつ，高等学校英語の授業の中でスマート学習を指導し，詳細で具体的な方略を段階的に示した項目で生徒自身が自己評価を行うことができるルーブリックを作成した。生徒のラーニング・ポートフォリオの叙述内容から抽出したため，指標の基準となる文言は振り返りをする生徒にもわかりやすく，また，次に目指す学習法の確認も容易となる。そしてこの作業により，筆者の思い描く「スマート学習者」の理想像が明示化された。

ルーブリックによる自己評価は，省察活動による効果的な学習法改善を促進する。項目ごとに自身の実態が正しくつかめ，それを自覚し，また次にどうすべきかといった目標を掲げつつ達成に向けて努力し，指標に合わせてステップアップしていけるので，自律学習が身について学力の伸長にもつながるであろう。

4.2　今後の課題と展望

ルーブリックを対象学年や生徒，実施時期に合わせて適宜加工すれば，それをもとに省察し，そして学習を積んでいく際の，自らの学習法改善と学力養成の指標にすることができる。

そして，ルーブリックの使い道がよくわかってうまく利用できたならば，次は生徒が自分自身で考えて，到達したい指標を掲げ，項目や基準を自分自身で設定していくようになる。つまり，より一層自律学習が進み，理想とするスマート学習を自らつくりかえ，バージョンアップしていくということ

になり，究極の結末が期待できよう。

なお，筆者が行った，ひとりひとりの伸長と傾向，ルーブリックの変動値などと叙述内容といった自己評価の結果は分析済みであり，活用の効果を報告する予定である。更なる考察と，項目，指標等の改善をしていくとともに，新たな年度，クラスで実践し，生徒への学習指導に還元していきたい。

◇引用文献

今井倫子・加藤直樹（2014）．メタ認知的方略を使用した学習活動の効果（1）—高等学校英語教科における「スマート学習」の検討—．岐阜大学総合情報メディアセンター　カリキュラム開発研究　第31巻第１号，pp. 8-19

濱名　篤（2012年11月）．中央教育審議会高等学校教育部会　－ルーブリックを活用したアセスメント．関西国際大学

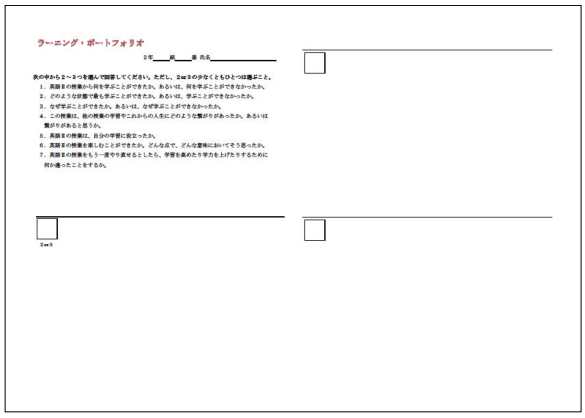

図１　ラーニング・ポートフォリオ

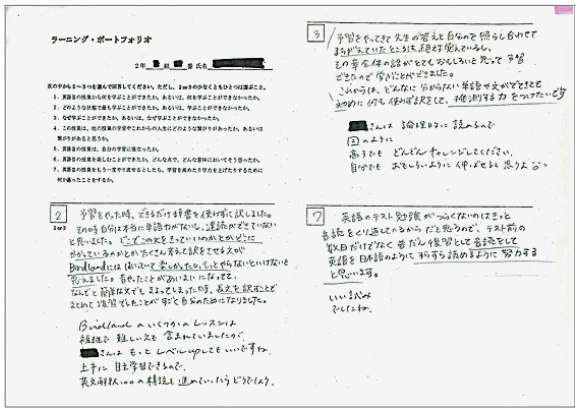

図２　ラーニング・ポートフォリオの例

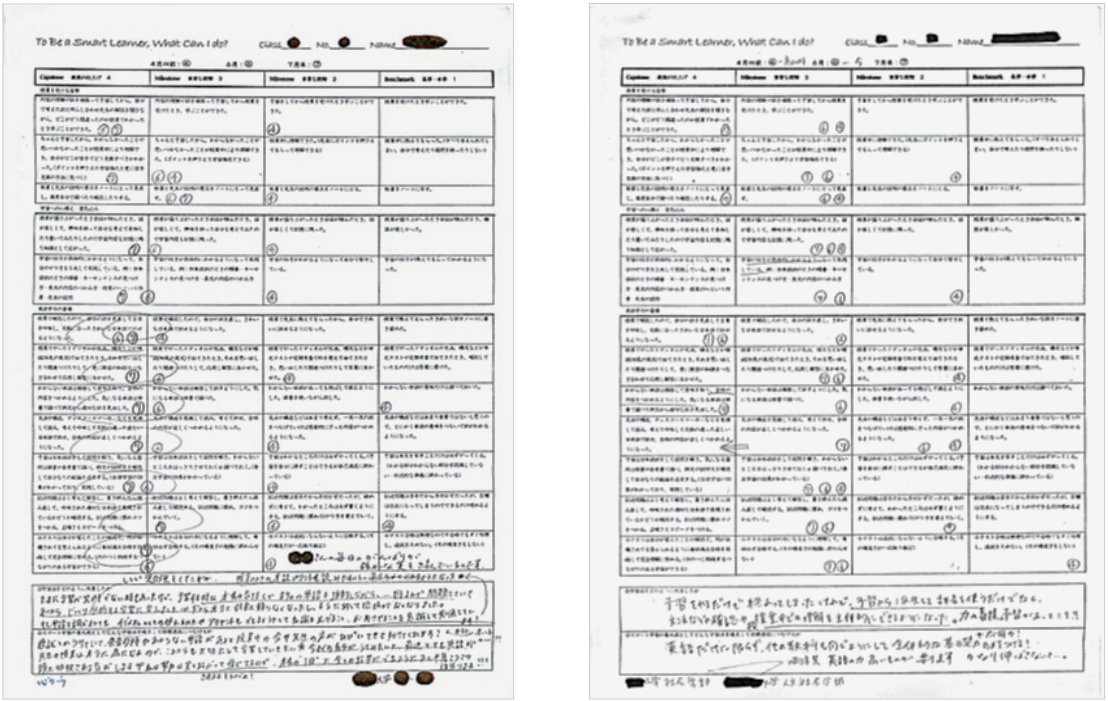

図３　コメントを入れて返却したルーブリック

表３　ルーブリック

Capstone 最後の仕上げ ４	Milestone 重要な段階 ３	Milestone 重要な段階 ２	Benchmark 基準・水準 １
授業を受ける姿勢・学習への心構え　「姿勢・心構え」			
塾や家庭教師などの何か違ったことをするというより，準備の整った一番良い状態でしっかりと授業を受けて学習したい。（学校の学習は確実にした上で補充の力をつけるために必要に応じて塾や家庭教師を利用する）	塾や家庭教師などの何か違ったことをするというより，しっかりと授業を受けて学習したい。（効果的な予習をして授業に臨めば力になるとわかっている・塾や家庭教師が悪いわけではないが他人の手を借りれば解決すると思っている）	わからないから塾に行って教えてもらってやり直す。（塾に行けばわかるようになると短絡的な解決に頼ってしまう）	わからないから塾に行く。（塾で何をしたいのかもわからない・無駄に終わる可能性大）
～のときあまり集中できなかったので効果的な勉強にならず成績も伸びなかったため，…するようにしたい or してみた。（自分の弱みがわかっている・謙虚に自分をみつめられ，改善しようとしている）	～のときあまり集中できなかったので効果的な勉強にならず，成績も伸びなかった。（多少いい加減にしていても何とかなるだろうと思っていた自分の甘さがわかっている・謙虚に自分をみつめられる）	あまり勉強しなかったので成績も伸びなかった。（いい加減にしていた自分に気づいている・このままではいけないことはわかっている）	成績が伸びなかった。（いい加減にしていた自分に気づいていない・自分に甘くまだ何とかなると思っている）
自分は～という性格・習慣・癖があるので，自分に合った勉強方法を見つけ工夫して実行したところ，…ができるようになった。	自分は～という性格・習慣・癖があるので，先生に教えてもらった or 授業で聞いたやり方に従って(実行したところ)，…ができるようになった。	先生に教えてもらった or 授業で聞いたやり方に従って(実行したところ)，…ができるようになった。	…ができるようになった。
新しい参考書や問題集を手がける前に，これまで使用していたものを利用して理解を確認し完璧にしたい。	新しい参考書や問題集を手がける前に，これまで使用していたものを全部やり直して確認したい。	効果のありそうな，人気のある有名な問題集を買って片っ端からやる。	効果のありそうな，人気のある有名な問題集を買う。
「自主勉強や予習の取り組み」			
予習は日本語訳をして設問を解き，気になる箇所は辞書や参考書で調べ，例文や説明文を確認して自分なりの結論を追求する。（自律学習の効果がわかっており，実践している）	予習は日本語訳をして設問を解き，わからないところをはっきりさせておく or 調べておく。（自律学習の効果がわかっている）	予習はわかるところだけは必ずやってくる。（予習を自分に課すことはできるが自己満足に終わっている）	予習は本文を写すことだけは必ずやってくる。（わかる部分わからない部分を認識していない・形式的な準備に終わっている）
学習の仕方が具体的にわかるようになって，自分のやり方を工夫して実践している。例；日本語訳の仕方・キーセンテンスの見つけ方・長文の内容のつかみ方)	学習の仕方が具体的にわかるようになって実践している。例；日本語訳の仕方・キーセンテンスの見つけ方・長文の内容のつかみ方	学習の仕方がわかるようになって自分で努力している。	学習の仕方が(教えてもらって)わかるようになった。
学校の副読本は制覇して応用力をつけ，小テストなどは完璧にする。その場凌ぎの合格に終わらない。	学校の副読本はしっかりと学習して小テストなどは必ず合格する。	学校の副読本の小テストは追試にならないように要領よく覚える。	学校の副読本は手が回らないので小テストは追試のあるものなど最低限のことだけやる。
難しい英文は諦めず読んで理解できるように努力し，自分の答えを導き出した。	難しい英文は諦めず読んで理解できるように努力した。	難しい英文は読み始めて単語だけ調べたが，途中で諦めた。	難しい英文は手をつけなかった。
「授業中の作業」			
日本語訳や問題の解答などは，授業中に確認しながら間違いを正し，説明やポイントなどをまとめ，あとで自分のノートを見直す。	日本語訳や問題の解答などは，授業中に確認しながら間違いを正し，あとで自分のノートを見直す。	日本語訳や問題の解答などは，授業中に人の発言を聞いて理解しながら自分のノートを完成させる。	日本語訳や問題の解答などは，授業中に自分のノートに書き込む。または人のノートを写す。
内容の理解や訳を頑張って予習してから，自分で考えた訳と照らし合わせ先生の解説を聞きながら，どこがどう間違ったのか授業でわかったとき学ぶことができた。	内容の理解や訳を頑張って予習してから授業を受けたとき，学ぶことができた。	予習をしてから授業を受けたとき学ぶことができた。	授業を受けたとき学ぶことができた。

ちゃんと予習したから，わからなかったことや思いつかなかったことが授業中に納得でき，より理解が深まり，自分がどこが苦手でどう克服すべきかわかった。（ポイントを押さえた学習強化と更に苦手克服の方法に気づく）	ちゃんと予習したから，わからなかったことや思いつかなかったことが授業中にわかり，より理解が深まった。（ポイントを押さえて学習強化できる）	授業中に理解できた。（先生にポイントを押さえてもらって理解できる）	授業中に教えてもらった。（すべて与えられてしまい，自分で考えたり疑問を持ったりしない）
予習でわからなかった問題が，授業や復習のとき理解できて，自分で答えを導き出せるようになったとき学べた。更に例文や応用問題で確認した。	予習でわからなかった問題が，授業や復習のとき理解できて，自分で答えを導き出せるようになったとき学べた。	予習でわからなかった問題の答えを，授業で埋めることができたとき学べた。（わからない問題を特定できている）	予習はしない or 適当にする。授業で答えを埋めたときに学べた。（わからない問題が特定できない）
英語の予習をしてきて授業中の先生の問いの答えがわかり，自分のことばで答えた(記述した)とき学べた。	英語の予習をしてきて授業中の先生の問いの答えがわかったとき学べた。	英語の予習をしてきたが授業中の先生の問いと結びつけられなかった。	英語の予習をしていないので先生の問いはその場で初めて考える。
板書と先生の説明の要点をノートにとって見直し，再度自分で調べたり確認したりする。	板書と先生の説明の要点をノートにとって見直す。	板書と先生の説明の要点をノートにとる。	板書をノートに写す。

英語学力の蓄積　「関係つける力」

授業でやったイディオムや文法，構文などが模試(初見の英文)で出てきたとき，それを思い出したり関連付けたりして，更に既習のその他の知識をつなぎ合わせて応用し答案に生かせた。	授業でやったイディオムや文法，構文などが模試(初見の英文)で出てきたとき，それを思い出したり関連付けたりして，答案に生かせた。	授業でやったイディオムや文法，構文などが単元テストや定期考査で形を変えて出てきたとき，思い出したり関連付けたりして答案に生かせた。	授業でやったイディオムや文法，構文などが単元テストや定期考査で出てきたとき，暗記していたものだけは答案に書けた。
理屈やつながりや意味などをよく考えて，既習の知識と関連付け，暗記に頼らないように自分の力で解答や訳を見つけ出した。	理屈やつながりや意味などを考えて，既習の知識と関連付け，暗記に頼らないように解答や訳を見つけ出そうとした。	理屈やつながりや意味などを考えるより暗記に頼って知識を広め，解答や訳を見つけ出そうとした。	解答や訳をほぼ暗記して習得しようと努めた。

「考え気づく力」

授業で確認したので，自分の訳を見直して言葉を吟味し，文脈に合ったきれいな日本語で訳せるようになった。	授業で確認したので，自分の訳を直し，きれいな日本語で訳せるようになった。	授業で先生に教えてもらったから，自分の訳を直した。	授業で教えてもらったきれいな訳をノートに書き留めた。
ただ英語を日本語にして訳をつなぎ合わせるという勉強法から，文脈やつながりを考えて英文から長文全体を読む癖をつけ，内容や主題(ポイント)をつかめるようになった。	ただ英語を日本語にして訳をつなぎ合わせるという勉強法から，考えて英文から長文全体を読む癖をつけ，内容をつかめるようになった。	英語を日本語にして訳をつなぎ合わせる勉強法で，自分が書いた日本語を読んで全体の内容をつかむようにした。	英語を日本語にして，訳をつなぎ合わせる勉強法を続けている。
わからない単語は類推して意味を取り，全体の内容をつかめるようにした。気になる単語は辞書で調べて例文から適切な訳を見出した。	わからない単語は類推して訳すようにした。気になる単語は辞書で調べた。	わからない単語があっても飛ばして読むようにした。辞書を使いながら訳した。	わからない単語の意味だけは調べておいた。
文法や構造，ディスコースマーカーなどを意識して読み，考えて吟味して文脈の通った正しい日本語で訳せ，全体の内容が正しくつかめるようになった。	文法や構造を意識して読み，考えて一文一文が正しく訳せ，全体の内容をつかめるようになった。	文法や構造などはあまり考えず，一文一文の訳をつなげていけば感覚的にざっと内容がつかめるようになった。	文法や構造などはあまり(重要ではないので)考えず，とにかく単語の意味をつないで一文一文の訳がわかるようになった。
記述問題はよく考えて解答し，書き終えたら読み直して，吟味された適切な日本語で表現されているかどうか確認する。記述問題に慣れコツをつかみ，正確さとスピードをつける。	記述問題はよく考えて解答し，書き終えたら読み直して確認する。記述問題に慣れ，コツをつかんでいく。	記述問題は苦手だから手付かずだったが，諦めずに考えて，わかったところは必ず書くようにする。記述問題に慣れて(やり方を覚えて)いく。	記述問題は苦手だから手付かずだったが，空欄は0点になってしまうのでできるだけ埋めるようにする。
小テストは自分が覚えたことの確認で，何が出題されても答えられるように毎回満点合格を目指して完全理解に努める。（力のつく持続するつながりのある学習ができる）	小テストは自分の力になるように理解して，毎回必ず合格する。（その場凌ぎの勉強に終わらせない）	小テストは追試にならないように合格する。（その場凌ぎだが一応取り組む）	小テスト合格は無理なので不合格でもすぐ処理し，追試をためない。（その場凌ぎもしない）